

追 悼

前會長 吉川晴十博士を悼む 正會員

日本鐵鋼協會前會長工學博士故吉川晴十君の告別式に當り、本會は君の學界に貢獻せられたる偉大なる功績を偲び、洵に哀悼の念に堪えざるものあり。

君は明治四十三年六月東京帝國大學、工科大學採鑛冶金科を卒業せらるゝや、直ちに海軍に入り職を吳海軍工廠に奉じ、爾來特殊鋼の製造に關する理論及び應用を深く研究せられたり。大正十二年五月工學博士の學位を授與せられ、更に昭和二年十二月吳海軍工廠製鋼部長を命ぜらるゝや、當時本邦に於ける特殊鋼製造技術の最高峰を擔當する責任者として斯業に心血を注がれたり。なかんずくニッケルクロム鋼の燒戻脆性に關する對策、大形鹽基性電氣爐による高級特殊鋼の製造等は最も顯著なるものとして永くその功績を記念さるべきものなり。昭和八年一月より同十七年十月に至る十年間は東京帝國大學教授として、冶金學に志を抱く子弟の教育に當ると共に、日本學術振興會委員、科學技術審議會委員等として學術の研究に携わり、且つ本會の理事、副會長乃至は監事として學會の發展にも熱心なる努力を傾けられたり。特に昭和十九年四月よりは本會會長として、會運の興隆に格別の貢獻を致されたるは會員一同深く徳とするところである。不幸にして二十一年一月公職追放により辭任せられたるも、敗戦による世相の混迷と生産の衰微には深く心を痛めらるゝものあり、偶々本協會研究部會再建の魁として、製鋼部會の始めらるるや、全國の平爐技術者翕然として君の傘下に集い、靄々として互にその技術を交流練磨し、製鋼原單位の向上と品質の改善に協力し、以て今日の隆昌を招きたるは、これ一重えに君の崇高無私の人格と眞摯なる努力に負うものと云うべし、六年有餘に亘る陰鬱なる公職追放の雲も漸く散じ、君の該博なる學識を内外に展べ得るの自由を獲られたる今日、遽に君の計に遭う、たゞ我等の恨事とする所たるのみならず、邦家のため眞に痛惜おく能はざるものと謂うべし。

今や君の溫容に接する能わず、君の教へを仰ぐに、その術を知らず。然れもど六十有七年の生涯を通じ、終始一貫渝ることなき君の至誠は、必らずや斯の道を嗣ぐ者に導きの光を與え君の弛まざる努力は、後進の心を奮起せしむる無限の糧たるべきを信ず。

茲に本會は哀惜の意を陳ぶると共に、君の偉大なる功業を追憶し、御靈の安らかなる御冥福を祈る。

昭和 27 年 6 月 9 日

日 本 鐵 鋼 協 會